

第15章 OSと性能

花田 英輔

(このPowerPointは渡辺名誉教授作成のものを花田が一部改題した)

1

性能の要素(教科書15.1)

- ▶ 処理する物のサイズ: プロセッサ速度、メモリ容量等
- ▶ 処理される物のサイズ: プログラムの命令数等
- ▶ OSにおけるスケジューリング方針

↓

- ▶ 実際の処理量: 単位時間当たり処理量、応答時間等

負荷(ジョブ群) → 処理(実行) → 結果

ジョブの性能特性 (重症患者比、慢性・急性比、) → システムの容量 (医師数、スタッフ数、診察室数、機器性能、) → スケジューリングポリシー (丁寧or迅速診療、患者or医師都合、) → (結果としての)システム性能 (待ち時間、在院時間、処置患者数、収支、満足度、死亡率、) 性能には多様な尺度

2

システムの容量

- ▶ 処理する物のサイズ
 - プロセッサ性能: 単位当たりの命令実行数
 - メモリ性能: 容量
 - ディスク性能: 容量、読み書き速度
 - 入出力性能: 単位時間当たりのデータ転送量

3

システムの性能指標

- ▶ プロセッサ性能: 単位当たりの命令実行数(命令数/時間)
 - 単位: MIPS(Million Instructions Per Seconds)等
 - クロック周波数(単位: GHz(Giga Hertz)等)が関係
 - 他にもキャッシュサイズ、コア数、命令セット等が関係
- ▶ メモリ性能: 容量:
 - 単位: MB(Mega Bytes)、GB(Giga Bytes)等
 - 読み書き速度も関係
- ▶ ディスク性能: 容量、読み書き速度
 - 単位: GB(Giga Bytes)、TB(Tera Bytes)等
 - シーク時間(ヘッド移動)、サーチ時間(回転待ち)が関係
- ▶ 入出力性能: 単位時間当たりのデータ転送量
 - 単位: MB/秒等

命令セット
RISC (Reduced Instruction Set Computer)
命令種類を減らし回路を単純化・高速化
CISC (Complex ..): RISCに対する語、旧来型
* 結局、ソフト互換性からCISCが勝利

4

単位表記

K(Kilo)	= 10 ³ = 1,000
M(Mega)	= 10 ⁶ = 1,000,000
G(Giga)	= 10 ⁹ = 1,000,000,000
T(Tera)	= 10 ¹² = 1,000,000,000,000
P(Peta)	= 10 ¹⁵ = 1,000,000,000,000,000
E(Exa)	= 10 ¹⁸ = 1,000,000,000,000,000,000
Z(Zetta)	= 10 ²¹ = 1,000,000,000,000,000,000,000
Y(Yotta)	= 10 ²⁴ = 1,000,000,000,000,000,000,000,000
<hr/>	
m(mili)	= 10 ⁻³ = 1/1,000
μ(micro)	= 10 ⁻⁶ = 1/1,000,000
n(nano)	= 10 ⁻⁹ = 1/1,000,000,000
p(pico)	= 10 ⁻¹² = 1/1,000,000,000,000
f(femto)	= 10 ⁻¹⁵ = 1/1,000,000,000,000,000
a(atto)	= 10 ⁻¹⁸ = 1/1,000,000,000,000,000,000
z(zepto)	= 10 ⁻²¹ = 1/1,000,000,000,000,000,000,000
y(yocto)	= 10 ⁻²⁴ = 1/1,000,000,000,000,000,000,000,000

ビット・バイト表現では、2¹⁰=1,024をK、2²⁰=1,048,576をM等との表記も使用
混乱を避けるため、MiB(mebibyte, mega binary byte) 等と表記することも

5

ジョブのサイズ

- ▶ 処理される物のサイズ
 - ジョブ
 - 利用者が実行するひとまとまりのプログラム (特にバッチ処理)
 - 性能に関する様々な特性=実行命令数、所要メモリ量、入出力回数、入出力データ量
- ▶ 比較には標準的なジョブ群を定義する必要
 - ベンチマークジョブ

6

ベンチマーク

- ▶ 測量において利用する水準点
 - ⇒ ハードやソフトの性能を測定するための指標
 - ベンチマークテスト
 - ・ プログラムを走らせて性能を比較する
 - ・ 実際に業務で使うプログラムまたは標準的な処理のプログラム
 - 有名なベンチマーク用プログラム
 - ・ Dhystone - 整数演算性能
 - ・ Whetstone - 浮動小数点演算性能
 - ・ SPEC - 総合性能、マルチプロセッサ性能
 - ・ TPC-C - トランザクション性能
 - ・ LINPACK - 浮動小数点演算性能

7

スケジューリングポリシー

- ▶ OSにおける**スケジュール方針**
 - 方針によって各ジョブの待たされ方が変化
 - ⇒ 応答時間が変化
 - 方式例)
 - ・ **FCFS (First Come First Serve)**
 - ・ **優先度方式**
 - ・ **ラウンドロビン**

8

スケジューリングポリシー

- ▶ **FCFS (先に来たものを先に)**
 - 長いジョブが挟まると後続ジョブが長時間待ち
- ▶ **優先度方式 (優先度の値の高いものを先に)**
 - 優先度の高いジョブは高速、低いジョブは低速、実行不可も
- ▶ **ラウンドロビン (短時間ごとに順次切替えて実行)**
 - 固有の実行時間とほぼ比例した応答時間
 - = 平等配分できる可能、頻繁に切替えのためオーバーヘッドが大

オーバーヘッド(overhead)=間接費
 何らかの処理を進める際に、間接的・付加的に必要な処理とそれにより発生する負荷の大きさ(教科書15.6)

9

システムの性能(教科書15.2)

- ▶ 様々な視点
 - システム全体、各資源、各ジョブ、各利用者
- ▶ 様々な評価基準
 - **スループット**: システムの処理量
 - ・ 単位時間当たりの処理件数(件数/時間)
 - (前提となるジョブを定義の必要(例: 1件の問合せ処理))
 - **資源の利用率**
 - ・ 順次使用資源(例: プリンタ)
 - ⇒ 使用している時間長/全時間長
 - ・ 空間使用資源(例: ディスク)
 - ⇒ 使用している領域サイズ/全領域サイズ

10

システムの性能

- ▶ **ジョブの経過時間**
 - プロセッサ実行時間(時間/ジョブ)
 - 入出力処理時間(時間/ジョブ)
 - 資源の空き待ち時間(時間/ジョブ)
 - ・ プロセッサ待ち、メモリ待ち、入出力待ち、排他的資源待ち
- ▶ 端末の**応答時間(Response Time)**
 - 端末から要求してから、その応答が返るまでの時間
 - ・ 比較には処理内容を定義する必要、他利用者の存在影響
 - 分散が大きいと不快

11

端末の応答時間(教科書15.4)

システム 応答時間 応答時間 思考時間 思考時間 時間

利用者

待ち列 処理
 OOOOOO O
 待ち時間 + サービス時間
 思考 思考
 O O O

$$\text{平均応答時間} = \frac{\text{平均サービス時間} \times \text{利用者数}}{\text{サーバ利用率}} - \text{平均思考時間}$$

利用者数1では待ち時間なし
 平均応答時間=平均サービス時間

利用者数大では利用率100%
 平均応答時間=平均サービス時間 × 利用者数 - 平均思考時間

平均応答時間
 平均サービス時間
 平均思考時間
 利用者数

12

資源の使用率とスループット(教科書15.5)

使用率: 100%
= ボトルネック資源
(これで処理性能が抑えられる)

リソースの使用率

- プロセッサ 50%
- ディスク制御装置 20%
- ディスク (ファイル用) 100%
- ディスク (ページング用) 30%

ボトルネック (ピン) の首

スループット = $\frac{\text{ボトルネック資源の容量}}{\text{ジョブ当たりの、この資源の平均使用量}}$ (件数/時間)

例: 100MBディスクを1ジョブが10MB使用 ⇒ 一度に最大10ジョブが使用可能

ボトルネック以外を強化しても効果なし
例: プロセッサを倍の性能にしてもスループットは同じ

13

第16章 OSと標準化

14

文字コード(教科書16.1)

- 当初は英語しかなかった
 - アルファベット+若干の記号 ⇒ 文字は100種もあれば十分
 - 1文字を、7ビット または 8ビット で表現
- ASCII**: 7ビット表現 ⇒ 小型機用から普及、現在一般的
 - American standard code for information interchange
 - 49(0x31)='1', 50(0x32)='2', 65(0x41)='A',
- EBCDIC**: 8ビット表現 ⇒ 汎用機用から普及
 - Extended binary coded decimal interchange code

10進数、	16進数、	8進数表現
49	0x49	049
そのまま	0xを頭に	0を頭に

15

JISコードのバイナリコード(半角カタカナ)のマップ

ASCIIコード

		下位4ビット															
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	a	b	c	d	e	f
16進数	2進数	0000	0001	0010	0011	0100	0101	0110	0111	1000	1001	1010	1011	1100	1101	1110	1111
0	0000	NUL	SOH	STX	ETX	EOT	ENQ	ACK	BEL	BS	HT	LF	VT	FF	CR	SO	SI
1	0001	DLE	DC1	DC2	DC3	DC4	NAK	SYN	ETB	CAN	EM	SUB	ESC	FS	GS	RS	US
2	0010	SP	!	"	#	\$	%	&	'	()	*	+	,	-	.	/
3	0011	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?
4	0100	@	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
5	0101	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[\]	^	_
6	0110	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	
7	0111	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{		}	~	DEL

'R' = 0101 0010

16

日本語のサポート

- 英文字定義(ほぼASCII): **JISX0201 ラテン文字**
 - ASCIIと2文字違い
 - バックslash[\] ⇒ 円マーク[¥]に
 - チルダ[~] ⇒ オーバーライン[¯]に
- 片仮名定義: **JISX0201 片仮名**
 - 49(0x31)='ア', 50(0x32)='イ',

17

JISコードのバイナリコード(半角カタカナ)のマップ

半角カタカナ

		下位4ビット															
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	a	b	c	d	e	f
16進数	2進数	0000	0001	0010	0011	0100	0101	0110	0111	1000	1001	1010	1011	1100	1101	1110	1111
0	0000	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1	0001	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
2	0010	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47
3	0011	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63
4	0100	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79
5	0101	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95
6	0110	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111
7	0111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127

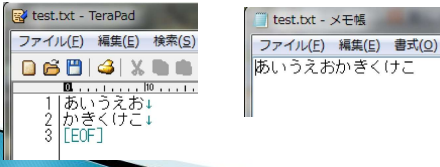
'マ' = 0101 0010

18

改行コード

- ▶ 改行を表すコードもOSにより相違
- ▶ システム間移動で改行がおかしくなることも

OS	改行コード	2進表現	16進表現
UNIX, MacOS X	LF	00001010	0x0A
Windows	CR+LF	00001101 00001010	0x0D 0x0A
Macintosh (Ver.9以前)	CR	00001101	0x0D



25

OSの国際化と地域化(教科書16.2)

- ▶ **国際化**: internationalization (i18n)
 - ソフトウェアに技術的な変更を加えることなく多様な言語や地域に適合できるようにする
 - ローカル=利用者の言語や文化に関する実行環境定義 setLocale(L)によって設定、同関数(例date())で異なる表示
 - ・ 文字、文字コード
 - ・ 日付表示(2001/05/02、02/05/2001、May 2, 2001.)
 - ・ 数値表示(1,000,000、100,0000、1.000.000.)
- ▶ **地域化**: Localization (L10n)
 - 地域固有の構成部品や翻訳テキストを追加することによって、ソフトウェアを特定の地域や言語に適合させること
 - ・ かな漢字変換、

26

OSの仕様の標準化(教科書16.3)

- ▶ **API標準化**
 - ⇒ 応用プログラム開発者にメリット
- ▶ **ユーザインタフェース標準化**
 - ⇒ 利用者にメリット
- ▶ **標準化ドキュメンテーション**
 - ⇒ OS開発者にメリット
- ▶ **オープンシステム**
 - 標準化され、特定の所有者ではないオープンな仕様に基づくシステム

27

UNIX系OSの仕様の標準化

- ▶ UNIX系のオープンシステム標準
 - 国際標準: ISO POSIX
 - The Open Group: 単一UNIX仕様
- ▶ 「UNIX」
 - 当初はAT&Tベル研で開発されたOS実体
 - 現状では仕様の名前、許諾を得たOSのみUNIXを名乗れる
 - ・ AIX, HP-UX, Solaris, MacOSXなど
 - 許諾なしのOSは、UNIXライク(UNIX系)とされる
 - ・ Linux, FreeBSD, NetBSD, OpenBSDなど

28

今回の課題

- マルチプログラミング環境において、プロセッサ使用率が50%、入出力装置使用率が100%であり、システム内のプロセス数は十分に多いとする。以下の()内を埋めよ。
 - 1) プロセッサ性能を2倍にしたらスループットは()倍になる。
 - 2) 入出力性能を2倍にしたらスループットは()倍になる。
- この講義全体の感想を書いてください
 - ▶ 今回のファイル名は“学籍番号-OS15.docx”
(例: 22238000-OS15.docx)としてください
 - ▶ 締切: 2月9日(金) 18:00 (遅れた場合は減点)

29